ヒロシマを知ることは未来を考えること

～はだしのゲンからのメッセージ～

1. 主題名　　ヒロシマを知ることは未来を考えること～はだしのゲンからのメッセージ～
2. ねらい

平和記念資料館・平和公園の見学や被爆体験証言を聞くことにより，ヒロシマの事実にふれヒロシマの真実を知り平和を希求する心情と態度を育てる。そして，自分たちの未来のあり方を考える。

1. 指導計画（全１１時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 小単元 | 時 | 学習内容 | おもな評価規準 |
| (課題設定)ヒロシマの事実を知ろう１「はだしのゲン」 | 1 | 1. 「はだしのゲン」を視聴し，1945年のヒロシマの実情を知る
 | 【関】ヒロシマの真実に関心を持ち，意欲的に学習しようとしている。 |
| ヒロシマの事実を知ろう２ | ２ | 1. 「はだしのゲン」から疑問点やもっと考えてみたいことを出し，課題を整理する。

・考える活動の中で出てきた疑問をグループごとに出し合い学習課題をつくる。 | 【考】【技】はだしのゲンから1945年のヒロシマの状況について考えることができる。 |
| ヒロシマの事実を調べよう・原爆被害の実相・原子爆弾の開発・なぜ原爆が投下されたのか。 | ３・４・５ | 1. 学習課題を「原爆被害の実相」「原子爆弾の開発」「なぜ原爆が投下されたのか。」とし，グループごとに調べ学習を行い，発表資料を作り，発表を行う。
* 一発の原爆の威力，それがもたらした被害の大きさや悲惨さを知り，核兵器は世界にあってはならないことを理解する。
* 原子爆弾は，戦争と科学技術が結びついて生み出された20世紀を象徴する兵器だということを理解する。
* 当時の日本の状況を調べ，原爆が投下された理由を知り，原爆投下が必要であったかどうかを考える。
 | 【知】原爆の威力とそれがもたらした被害の大きさや悲惨さを知ることができる。【技】【知】原爆の原理と，広島に投下された原爆について知り，それまで使われた爆弾とどんなところが違うのかを比較して考えることができる。【知】【考】当時の日本の状況を調べ，原爆が投下された理由を知り，原爆投下が必要であったかどうかを考えることができる。参考文献・平和記念資料館学習ハンドブック・改訂版歩いてみよう広島の町・広島のおばあちゃん参考ＷＥＢ・平和教育研究所・ヒロシマピースサイト |
| 黒い雨と放射線 | ６・７ | 1. 「原爆の子の像」から放射線による被害と後障害について考える
2. 放射線による被害と後障害について知りに，放射線被曝の身体への影響を考える。
 | 【考】【技】放射線による被害と後障害について知り，放射線被曝の身体への影響を考えることができる。 |
| 平和記念資料館被爆体験証言を聞く会 | ８・９ | 1. 平和記念資料館の見学と被爆体験証言を聞くことを通して，調べたり考えたりしたことを検証する。
 | 【知】【考】資料館の見学や体験証言を聞きながら気付いたことや考えたことをワークシートに書くことができる。 |
| わたしたちにできることを考えよう。 | 10・11 | 1. 核兵器の現状と核のない平和な社会について考える
2. 学習してきたことをもとに，自分たちの現在の生活や未来について考える。
 | 【知】世界中には今でも数多くの核兵器があり，その廃絶は21世紀に課せられた大きな課題であることを知る。【考】平和を作っていくため，私たち一人ひとりが今後何をしなければいけないか考えることができる。 |

1. 本時の指導計画（本時６・７／１2）

（１）ねらい　「原爆の子の像」から放射線による被害と後障害について考える

（２）学習過程

|  | 学習の流れと学習活動 | ○指導・支援のポイント【　】評価〈　〉評価方法 |
| --- | --- | --- |
| 話題提示・課題発見 | 1．原爆の子の像”佐々木禎子さんと折鶴について知る。原爆の子の像に刻まれている「**これはぼくらの叫びです これは私たちの祈りです 世界に平和をきずくための**」とは何だろうか。2．原爆による後障害について知る。　○なぜ無傷だった禎子さんが，白血病でなくなったのだろうか。 | 「佐々木禎子の物語（クミコの"ＩＮＯＲＩ～祈り～"Sadako Story）」を視聴する。 |
| 課題解決 | 3．放射性物質や分裂しなかったウランなどから出る放射線は，どのような障害を人体に与えるかを調べる。　班ごとに放射線の影響について図書室・インターネット検索を通じて調べまとめる。　○放射性物質，放射能，放射線　○放射線の人体への影響　○放射線による後障害　 | ○グループ毎に，発表項目を選び，図書室，インターネット検索を通じて調べ，発表資料を作る。参考文献・平和記念資料館学習ハンドブック・改訂版歩いてみよう広島の町・広島のおばあちゃん参考ＷＥＢ・平和教育研究所・ヒロシマピースサイト |
| 共有化 | 4．グループ毎に調べた内容を発表する。　発表の内容を整理し，内部被曝と外部被曝との違いを補足説明する。(フクシマの子どもたち) | 【技】放射線による被害と後障害について知り，放射線被曝の身体への影響を考えることができる。（観察・ノート・発表） |
| 深化・活用 | 5．「ぼくらの叫び，私たちの祈り」とは何だろうか。 | ○原爆の子の像に込められた祈りや願いを考える。本時の学習の振り返りをノートにまとめる。 |

1. 社会見学（９・１０／１２）

（１）ねらい　平和記念資料館の見学と被爆体験証言を聞くことを通して，調べたり考えたりしたことを検証する。

（２）学習過程

社会見学として広島平和記念資料館の見学と被爆体験証言を聞く会を計画した。

まず，平和記念資料館を見学した。入館してまず展示してあったのは，広島が軍都として発展した歴史や戦時中の様子，また，アメリカが原子爆弾を開発して広島に投下するまでの経緯など。子どもたちは，事前に作成した学習冊子に書き込む内容を展示の中から探しながら見学を進めた。子どもたちが特に興味を示していたのは，原爆が投下される前と後の街の様子を表した模型であった。平和公園は，かつてたくさんの家が立ち並んだ街であったことや，その街が一瞬にして破壊された様子に驚いているようであった。また，原爆が投下された後，街に残されたさまざまな物を目の当たりにして，それまで以上に原爆のおそろしさを感じたようであった。

次に，被爆体験証言を聞く会をした。被爆教職員の会の先生から原爆投下時の状況を語ってもらった。事前学習や広島平和記念資料館の見学で概要は知っていたが，ヒロシマの町が3秒でなくなったことや被爆者のそのときの状況を詳しく話される内容にとても衝撃を受けていた。また「なぜ，原爆が落とされたのだろう」「どうして証言者の人は，あんなにつらい思い出を僕たちに伝えてくれるのだろう」などの疑問を，証言者の話から理解することができた。

最後に原爆投下から10年後に亡くなった佐々木禎子さんに思いを馳せながら，「おりづる」を歌い，児童会で取り組んで作った千羽鶴を献納した。最後に児童の代表があいさつを行い，参加者全員が平和への思いを新たにした。

私たちは，平和記念公園にくる前に，「はだしのゲン」を見たり，平和資料で調べたりしました。そして，原子爆弾で約１４万人がなくなり，今でも多くの人が，放射能で苦しんでいることを知りました。

　私たちは，原子爆弾を落とした戦争は，人を苦しめるだけなのでなくしたらいいと思います。

　そのためには，まず身の回りのけんかやいじめなどの争いごとをなくしていこうと思います。それを実現させるには，とことん話し合えばいいと思います。この活動が少しずつでも広がれば，戦争がなくなるのではないでしょうか。

　私たちは，戦争をなくすために努力することを誓います。

　２０１２年１０月２３日

 ○○小学校４年学級代表

 ○○○○